

## キシュウスズメノヒエ

各地の湖沼、ため池、河川、水路などの水辺に群生（ぐんせい）するイネ科植物です。花序（かじょ）はVの字のような二股に分かれています。水辺の湿った泥地からやや乾いたところまで、地面をはって生育します。また水があるところでは、茎や葉が水面に浮かんで群生します。

世界各地の熱帯や温帯に広く分布し、日本では外来種と考えられています。和歌山県で最初に確認されたため、キシュウスズメノヒエと名づけられました。現在は関東地方から九州にかけて広く分布しています。

### 富士市での現状

滝川の川岸、浮島ヶ原自然公園近くのため池、富士川左岸の河口近くの池で生育が確認されています。目立たない植物なので、気付く人は少ないでしょう。しかし、流れがあるところにも無いところにも生育し、水中でも水面よりも上の湿地でも生育できる生育範囲の広い植物なので、富士市での生育地は多いと思われませんが、旧富士川町域では確認されていません。



キシュウスズメノヒエの花

### キシュウスズメノヒエを確認したメッシュ

